

集約型農業の担い手として、広大な農地の再生に挑む
一般財団法人飯館村振興公社（農業部門）

大井利裕さん（草野）が部長を務める飯館村振興公社の農業部門は、集約した農地の担い手として農業に取り組み、休耕地の営農再開も進めています。今年は、飼料用米などの生産を中心に、道の駅までい館前の花畑の管理も行っています。

飯館村振興公社は、産業の活性化などを目的に、昭和63年、JAや飯館村商工会などが資金を出し合い設立した機関です。震災前は、飯館村畜産技術センターで、肉用牛生産の実証事業や生産技術の普及指導に力を注ぎ、飯館牛ブランドの確立普及に努めていました。また、さまざまな村おこし事業を支え、村営書店「ほんの森いいたて」（現在は閉店）の運営管理なども務めていました。



休耕地が息を吹き返し、里山の風景を取り戻しています。写真は深谷地区。



花畑で作業をしていた新人の齊藤和哉さん（深谷）。「やりがいのある仕事です」



しかし、震災と原発事故による全村避難で、それら全ての業務が中断。避難の期間は、国の除染作業の一部を受託し、原発災害にも向き合いました。

その後、避難指示解除に伴い再開した宿泊体験館きこりなどを含む「村民の森あいの沢」の指定管理業務を受託。現在は、土木部門と農業部門を置いて、新たな村づくりにも力を尽くしています。

「長期にわたり休耕していた農地を田に戻す作業は、手をかけなければできません」と大井さん。営農面積を拡大しながら、今年は村内各地の約30haで営農。農繁期には、

パート契約や作業委託で、農業者を雇用し作業を進めています。

水田の水管理を担当している新谷晃弘さん（伊丹沢）は、「地元の人にも相談しながら作業ができています」と手応えを話します。大井さんは「農業では特に、互いを理解し協力して作業することが大事」とチームワークを大切にしています。

飯館村振興公社は常に、地域振興の最前線で挑戦を続けてきました。水田を有効活用して生産する飼料で和牛農家を支え、また、事業を通じて新たな担い手も育成していきます。

飯館村振興公社
飯館村草野字大師堂113-1
☎ 0244-42-0465

飯館村振興公社の農業部門では、企業雇用型地域おこし協力隊を募集しています。（協力隊応募の詳細については「いいたて移住サポートセンター「3ど」」☎0244-68-2850まで）

振興公社の事務所は旧草野小学校の校舎内にあります。職員の皆さんが次々に現場から戻って来る夕刻、敷地内に並ぶ大型車両の前で。

村民の森あいの沢にて「永井川カフェ」

「ゆかいなしあわせカフェ永井川」では、毎月さまざまな内容で交流会を企画し開催しています。

8月7日の「移動カフェ」では、13人の参加者が「村民の森あいの沢」を訪れました。同所は今年7月に「農業研修館きりり」が開所するなど、再整備が進められています。一行は散策を兼ねて視察を行い、昼食はエリア内の施設、民家園にて流しそうめん。にぎやかに会話も弾んで、楽しいひとときを過ごしました。



農×デザイン塾2024@図図倉庫

8月5日から5日間、図図倉庫を運営する合同会社MARBLiNGが、学生・院生を対象に『農×デザイン塾』を開催。11人の参加者が村内ツアーで学びを深め、「農」をテーマに商品開発や販売手法の考案に取り組みました。活動は、9月28日・29日に双葉町を中心に開催される「HAMADOORI CIRCLE 2024」の出展に向けて継続します。参加者の一人、坂田真紀さんは、「密度の高い活動ができました。村の方のお話を聞き、高齢の方からも生命力やエネルギーを感じました。風景は至る所がきれいで、そこにも人の力をを感じました」と話していました。



東京藝術大学の大学院で学ぶ坂田さん

「健やか会」が交流イベントを開催

7月30日、「健やかに暮らせるいいたての会」が、村の学童保育と川俣ジュニアボランティア、復興公営住宅壁沢団地（川俣町）の入居者を招き交流会を開催しました。飯館村と川俣町、双方の社会福祉協議会が協力しました。交流センター「ふれ愛館」では、酒百宏一さんによる「までい花プロジェクト」のワークショップ。村で採集された木の葉を色鉛筆で写し取り「までい花」の製作を楽しみました。また、昼食は「村民の森あいの沢」で流しそうめんを味わいました。



映画「生きて、生きて、生きろ。」を上映

8月12日、映画「生きて、生きて、生きろ。」の自主上映会が実行委員会の主催で開催されました。会場の図図倉庫には村内外から約50人が集まりました。

この映画は、震災から13年が経過する福島で遅発性PTSD（心的外傷後ストレス障害）にお苦しむ人々と、共に生きる医療従事者たちを記録したドキュメンタリー。上映後、映画に登場する医療従事者の1人、米倉一磨さんと杉岡村長が対談し、映画に重ねてそれぞれの被災体験を振り返りました。

